

尾州発 夢を叶える服づくり 10年を振り返って

特別支援学校に通う子ども達の衣服に対する様々な声を聞き、彼らの夢を叶える服づくりが始まってから、平成29年度で10年が経ちます。市や県の行政、研究機関、学校、繊維製造企業が集まって、子ども達にとって着心地の良い、着脱しやすい、シルエットの美しい服を数多く開発してきました。

今までにこの取組に協力していただいた企業や機関は20社を超えます。この取組をきっかけに、全国の企業や機関と繋がりをもつ機会も得られました。

愛知県の尾張西部地域、岐阜県西濃地域は「尾州」と呼ばれ、毛織物の産地として全国一の規模を誇っています。糸から製品まで服づくりのための素晴らしい社会基盤があります。

この地域の持つ高い技術力がこの取組を支えてきたことは間違いないありません。

それ以上に忘れてならないのは、衣服やファッションに対する情熱、お互いが相手を思う温かい気持ち、そしてみんなが主役であったことが続けてこられた一番の理由であると感じます。

企業、行政、学校、子ども達全員で作り上げてきた衣服は、本人はもちろん、保護者や先生方、たくさんの人たちに笑顔を届けます。素敵な服を着た子ども達の気持ちは外へ向かい、社会との心地よい関わりが増えていきます。



平成27年度に発表したレインコートは彼らの雨の日の過ごし方を教えてくれました。

このコートを着て雨の中を歩いた子ども達の様子を伝えてくださった先生方の言葉が印象的でした。



「降ってくる雨を見上げて不思議そうに見つめていた子ども達」
「ポツポツと当たる雨音に驚いた様子の子ども達」

人に新しい感覚をもたらしてくれる衣服、喜びを与えてくれる衣服。それらを構成しているテキスタイル素材はどうあるべきか、あらためてその価値を見つめ直していきたいものです。

